

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



2000. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



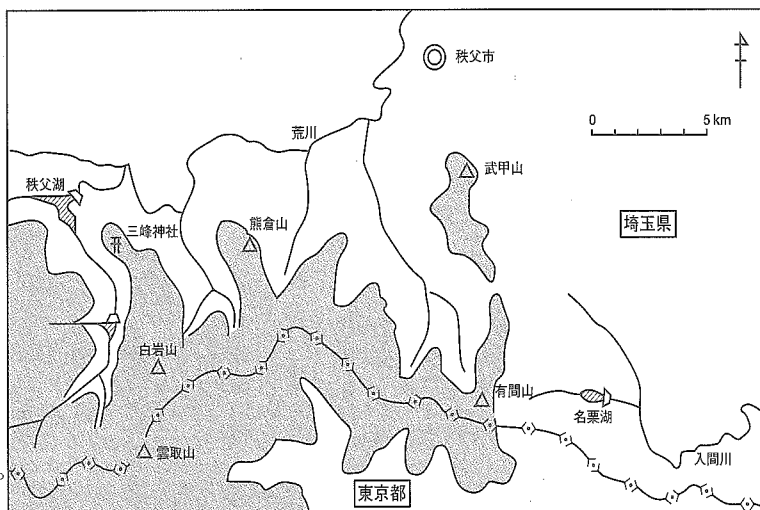
NO. 197

日本野鳥の会 埼玉県支部

遠く秩父や奥武蔵の山々がのぞめた日など、「あの頂上に住む鳥たちの様子も知りたいな」と思うときがあります。

また「野鳥情報（今月号はお休みです）」も平地のものがどうしても多くなります。

そこで今回は、山地にすむ鳥たちの調査をされたお二人に、その様子などを語っていただきます。



## 奥武蔵・有間山一帯

—鳥の生息環境モニタリング調査から—

永島高行(東村山市)

埼玉県内において、本格的な山地の自然が味わえるのは、奥秩父や奥武蔵ということになるでしょう。ここで紹介する有間山(別名タタラノ頭: 海拔1214m)一帯は、奥武蔵県立自然公園の中に位置する山深い趣のある場所です。

このあたりは、現在は自然公園法(県立自然公園)・鳥獣保護法(休猟区)により守られてはいます。しかしながら、当地の豊かな自然の将来が保証されているわけではないので、基礎資料となるようないろんな記録を残していきたいと考えています。

有間山は、名栗村の名栗湖(有間ダム)から、有間川支流逆川沢沿いに逆川林道をひたすら登り、秩父市との境界になる峠(海拔約1100m)に出て、そこから稜線を北に1Kmほどのところまで。

峠から有間山までは、ほぼ尾根沿いの樹林中の道で30~40分程歩きます。所々ヤブこぎも必要となりますが、自然が豊かで鳥が多く、人とは滅多に出会わない静かなコースです。

スギ・ヒノキの植林が相当進んでいる奥武蔵ですが、有間山一帯にはブナ・ミズナラを主体とした、自然度の高い落葉広葉樹林(二次林)が広がります。樹高はせいぜい15m、最大胸高直径40cm程と大木はありませんが、

樹木が比較的高密度に生育するうっそうとした森林です。林床には随所に人の背丈ほどのスズタケが密生しています。そして、この密生したスズタケのために後継樹が育たず、低木層が欠けた森林の構造となっています。

このような環境のため、ここではヤブを好む鳥類が優占します。繁殖期にもっともよく囀りを聞くのはウグイスで、コルリも囀りをよく耳にします。また、帰化鳥のソウシチョウの姿を目にします。奥多摩や丹沢山地でもソウシチョウをしばしば見かけますが、ここほど高密度では見られません。今後の有間山周辺の鳥類相の攪乱が懸念されます。

日本野鳥の会では、鳥の生息環境モニタリング調査を行っています。この調査の一環として、平成11年度に峠から有間山までについて調査を行いました。

今までに筆者が有間山周辺で確認した鳥類は、リストに示した通りで43種類です。このうちモニタリング調査では夏季に24種、冬季に6種の鳥類を確認しています。

夏季のモニタリング調査では、豊かな森林環境を反映して森林性の鳥類が種数・個体数ともよく観察でき、夏鳥が10種ほど渡来していることが確認できました。やはりササやぶを利用するウグイスが圧倒的に多く記録され、

有間山周辺鳥類リスト

| 種名     | 夏 | 冬 | 種名       | 夏   | 冬  |
|--------|---|---|----------|-----|----|
| ハチクマ   |   |   | クロツグミ    |     |    |
| トビ     |   |   | アカハラ     | ●   |    |
| アオバト   |   |   | ツグミ      |     |    |
| ジュウイチ  | ● |   | ヤブサメ     | ●   |    |
| ツツドリ   | ● |   | ウグイス     | ●   |    |
| ホトトギス  | ● |   | センダイムシクイ | ●   |    |
| アオゲラ   |   |   | ククイタダキ   |     |    |
| アカゲラ   | ● |   | オオルリ     |     |    |
| オオアカゲラ |   | ● | エナガ      | ●   | ●  |
| コゲラ    | ● | ● | コガラ      | ●   | ●  |
| イワツバメ  |   |   | ヒガラ      | ●   |    |
| キセキレイ  |   |   | ヤマガラ     |     |    |
| ピンズイ   | ● |   | シジュウカラ   | ●   |    |
| ヒヨドリ   | ● | ● | ゴジュウカラ   |     | ●  |
| モズ     |   |   | メジロ      | ●   |    |
| カワガラス  |   |   | ホオジロ     | ●   |    |
| ミソサザイ  | ● |   | ウソ       |     |    |
| コマドリ   | ● |   | イカル      | ●   |    |
| コルリ    | ● |   | カケス      | ●   |    |
| ルリビタキ  |   |   | ハシブトガラス  |     |    |
| マミジロ   | ● |   | ソウシチョウ   | ●   |    |
| トラツグミ  |   |   | 43種      | 24種 | 6種 |

〔種名〕は筆者が今までに確認した種

〔夏〕はモニタリング調査の夏季調査確認種

〔冬〕はモニタリング調査の冬季調査確認種

空白域がないくらいルート全般にわたりテリトリーが観察できました。次いでコルリが多く、ほぼ全般にテリトリーが観察され、歩いているとウグイスとともに、すぐ近くのササやぶからひっきりなしに囀りが聞こえてきました。その他ササやぶでは、少ないながらも私の好きなコマドリもその美声を聞かせてくれました。問題のソウシチョウはほぼ全般で観察され、自然度の高い森林（林床にスズタケが茂ったブナ等落葉広葉樹林）に入り込んで定着していることが明らかで、改めて競合関係が予想されるウグイスやコルリ等への影響を心配せざるを得ませんでした。

目を上に向けてみると、樹上にはコゲラ・エナガやコガラ等のカラ類がよく見られ、梢で囀るマミジロも観察されました。上空はホトトギスが盛んに飛び交い、ツツドリ・ジュウイチも鳴きながら飛んでいました。

有間山の手前からは、尾根沿いが幅5～10mの防火帯として開けており、一転して大変歩きやすくなります。有間山の山頂付近では、ピンズイ・アカハラ等が囀っているのが確認されました。

冬季のモニタリング調査では、確認種数・

個体数とも大変少なくなり、冬鳥は確認することができませんでした。この一帯は標高がそこそこ高いので、冬はかなり冷え込み、落葉広葉樹林が広がる山々は、一面に冬枯れの森になります。このことは鳥達の冬越しの場として問題になることとは思えませんが、コガラ・ゴジュウカラ・コゲラ等により構成されるカラ類の混群がいくつか見られた程度でした。ただ、特筆されるのは「さいたまレッドデータブック」で希少種に選定されているオオアカゲラが確認されたことです。この時以外は当地で確認したことがないため、たまたま漂行していた個体を確認した可能性が高いと考えられますが、自然度の高いブナ林に好んで生息しますので、近隣のブナ林に定着しているのかもしれませんが。

筆者は、この地を訪れるようになってからまだ3年程です。今回のモニタリング調査を除けば、冬季はほとんどこの地に足を踏み入れたことがありません。また、夜間も特に観察をしていないので、アトリやマヒワ等の冬鳥、ヨタカやフクロウ類等の夜の鳥等、まだまだいろんな鳥達に出会えるものと楽しみにしています。

# 雲取山頂から白岩山頂

—種の多様性調査・鳥類生息分布調査から—

和田康男(行田市)

この調査は日本野鳥の会が環境庁の委託を受けて全国的に実施するもの。

5月下旬、熊倉山で同じ調査を担当しているM氏、H氏両ご夫妻に同行した。雲取山での自分の調査の弾みをつけるつもりだったが、途中で足がつって登頂が遅れ、落ち込んでしまった。

ともあれ、自分の担当調査を実行せねばと気を取り直したところで梅雨入り。雨が続く。6月末の期限がどんどん迫り焦り始めたところ、16、17日は梅雨の中休みとの天気予報。早速雲取山荘に予約を入れた。

## ●往路

6月16日、晴れ。

三峰山頂駅を午前9時30分出発。霧藻ヶ峰まではウグイスの声だけ。これなら調査は楽だと、妙な期待。

お清平～前白岩間は非常にきつい登りで、休みながら登る。この辺りからコルリがさえずり、時々道を横切る影も見える。くたばった身体をいやしてくれる。白岩山頂では、鹿が3頭出迎えてくれた。

ここから雲取山頂までが調査区間。植生などの環境調査をしながら進む。コメツガとダケカンパの混交林。

大ダワまではゆるやかな下り。途中、こちらより高い位置に山荘が見えるが、それを見ながら下るので、何か損をしている気分。遠くからツツドリが聞こえる。

なんなく午後4時、山荘到着。

山荘は昨年建て直したログハウスで、きれいで気持ちがよい。夕食までの間、外でビールを飲みながら耳をすますと、ルリビタキ、コルリの声が聞こえるが、数は多くないようだ。

夜中、眠れぬままに外の音を聞いていると、ホトトギスの声が聞こえた。翌朝、山荘の主人の話では、ホトトギスは月夜の晩には鳴くそう。

## ●雲取山荘から雲取山頂まで

6月17日、曇り。

山荘にザックを預け、午前6時、山頂に向かう。早朝はさすがに鳥の声が多い。

6時30分、山頂に到着。真っ先に枝先のウソが目に入った。続いてビンズイ。

調査は、一定のところにとどまっていた定点調査、歩きながらのロードサイド調査と、環境調査が組み合わされている。この山頂で最初の定点調査。その後白岩山に向かってロードサイド調査を続ける。

8時ころからハルゼミがうるさくなってきて、鳥声をのがさないように注意する。9時に白岩山頂に到着して2回目の定点調査。

雲取山～白岩山間で確認出来た鳥は、ウソ、ビンズイ、コルリ、ルリビタキ、ウグイス、ホトトギス、ミソサザイ、キビタキ、ゴジュウカラ、ヒガラ、コガラ、アカゲラ、ツツドリ、ジュウイチの14種。

この内、姿が見られたのはウソ、ビンズイ、コルリ、ルリビタキ、ミソサザイの5種だけ。他は声で判断した。

熊倉山では盛んに鳴いていたトラツグミは、ここでは全く聞こえなかった。

## ●帰路

調査終了した途端に急に気が楽になって、複数で調査した方が良かったかなと反省しながらも、山の雰囲気をも十分に満喫しつつ下山した。



# 2000年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：2000年4月29日 9：40～11：40  
 場所：浦和市／大宮市 大久保農耕地  
 天候：晴れ

1997年～2000年 春のシギ・チドリ類調査結果

| 調査地      | 大久保農耕地<br>浦和市／大宮市 |      |      |      |
|----------|-------------------|------|------|------|
|          | '97年              | '98年 | '99年 | '00年 |
| 鳥 類      |                   |      |      |      |
| コチドリ     | —                 | 1    | 2    | 5    |
| ムナグロ     | 178               | 143  | 130  | 115  |
| キョウジョシギ  | —                 | 2    | 4    | —    |
| アオアシシギ   | —                 | —    | 7    | —    |
| タカブシギ    | —                 | —    | 1    | 5    |
| キアシシギ    | —                 | 2    | 1    | —    |
| イソシギ     | —                 | 1    | —    | —    |
| チュウシャクシギ | 10                | 2    | 5    | 11   |
| タシギ      | 3                 | 6    | 3    | 3    |
| ジシギSP    | —                 | 1    | —    | —    |
| 個体数合計    | 191               | 158  | 153  | 139  |
| 種数合計     | 3                 | 8    | 8    | 5    |

当日は低気圧が東に去り、西からの高気圧に覆われてきたが風が強く、肌寒いくらいでした。そのような中、支部会員18名の協力が得られました。ご苦労さまでした。

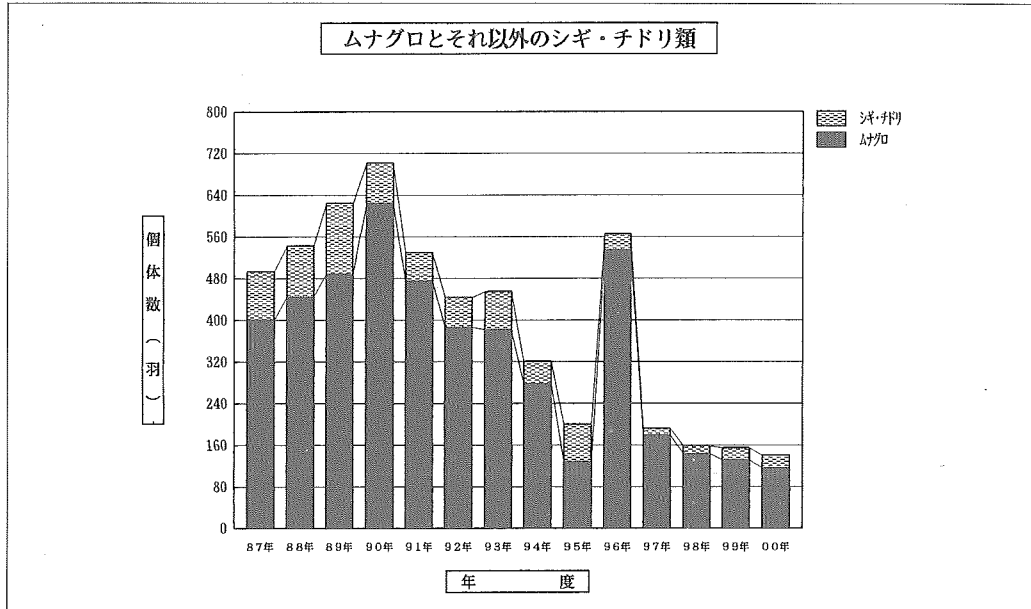
観察された鳥類・個体数は5種139羽で、昨年と比べると、種数で3種類、個体数で14羽少ない結果でした。

また、1997年以降は、シギ・チドリ類の個体数は、200羽を越えておらず、少しずつだてが年々減少しています。理由ははっきりわかりませんが、400羽を越えていた1993年以前に比べると、環境が変化していることは認められます。

グラフは春のカウント結果のうち、大久保

農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数をまとめたものです。

(石井 智)



表紙の写真

## チュウサギ (コウノトリ目サギ科シラサギ属)

刈り取りの終わった9月の田んぼでは、ダイ・チュウ・コ・アマ、4種類が勢ぞろいし、その違いを観察するのが楽しい。例えばダイとチュウ……乾いた田んぼでカエルを食べていれば、多分チュウの方。

自転車の鳥見人 (浦和市)

## 県内野鳥記録の追加情報

日本野鳥の会埼玉県支部野鳥記録委員会

### ●ハシグロクロハラアジサシ

分類 チドリ目カモメ科クロハラアジサシ属

学名 *Chlidonias nigra*

英名 Black Tern

本年6月25日(日)午前9時20分ころ、浦和市下山口新田の芝川第一調整池で、コアジサシ15羽位の群れと共に採餌中の1羽を、大塚操会員(越谷市)が発見。釣り台に一時とまったところを、スコープにカメラを接続して撮影した。知らせを聞いて当日午後1時ごろに駆けつけた人は、発見できなかった。

県内初。県内鳥類目録としては305番目の記録。

PETER HARRISON 著「SEABIRDS an



identification guide」によれば全長22~24cm、翼開長約66cm。コアジサシ(全長20~28cm、翼開長50~55cm)よりかなり大きい。北米大陸の中北部、ヨーロッパ、アジア西部の沼地で繁殖し、冬は南米、アラビア海、アフリカに渡る。日本には、迷鳥としてまれに飛来する。

### 三宅島探鳥会に参加して

長嶋宏之(蓮田市)

5月12~13日、総勢12名の三宅島探鳥会に念願叶い初めて参加させてもらった。アカコッコ館入り口では、アカコッコが我々を出迎えてくれた。スタジイの森はコマドリやイイジママシクイ、それにミソサザイの囀りシャワーだ。池を半周した休憩舎でオーストンヤマガラ、シチトウメジロを確認。このころ雨も上がり、ミサゴが湖上を飛翔、そしてついに目の前の松にカラスバトが。

海岸ではカツオドリ、メリケンキアシシギの出現に何か得した気分。伊豆岬ではウチヤマセンニュウの独特な飛翔、ヒメアマツバメの識別に無我夢中。

帰りの船上では、数万羽のオオミズナギドリの乱舞、優美なコアホウドリ、勇壮なクロアシアホウドリの連続出現に歓声しきり。時の経つのを忘れた。三宅島探鳥会ならではの鳥を十二分に見られ、皆大満足した探鳥会だった。(出現鳥48種)

鳥見以外では、闇夜に光るキノコ、ヒラマサの刺身、焼酎談義、ジャック・T・モイヤ一氏との話、どれも心に残る思い出となった。

### 初夏の訪問者

川崎洋子(春日部市)

今年も、ツバメの飛ぶ姿が見られるようになりました。春から夏への橋渡しをするようなツバメは私の大好きな鳥ですが、ここ数年、飛来する数が減っているようで、気になります。

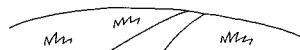
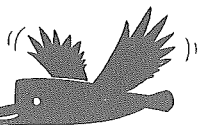
いつの頃からか、春日部駅の西口と東口を結ぶ地下連絡通路の入り口に、ツバメが巣を作っていました。そこを通るたびに、顔中口にして餌をねだるかわいい雛たちを眺めるのが、私の楽しみでした。

数年前、その通路の壁に海の底をイメージしたきれいな絵が描かれました。それまでの落書きだらけの薄汚い場所が、明るく気持ちの良い通路へと一変したのは良かったのですが、それとともにそのツバメの巣も取り払われてしまったのです。

最近、ツバメの巣などに関心を払わず、むしろ糞で汚れるのを嫌う傾向が強いといわれます。事実、その通路でも、足を止めて見ていたのは私くらいで、だれひとり見向きもしていませんでした。

鳥たちが安心して人間と共存できる場所が、人間にとっても住みやすい所ではないかと思うのですが……。

# 行事あんない



(何森 要)

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月10日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居9：03発に乗車。

担当：島田、森本、中里、石井(博)、倉崎、松本、高橋、後藤

見どころ：秋の渡りの季節です。エゾビタキ、ノビタキを探し、ヒガンバナの咲く荒川土手を歩きます。去年はショウドウツバメに会うことができました。シギ・チドリも期待。

## シギ・チドリ類県内調査

期日：9月15日(金・祝)

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリの調査を行っています。特に下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力をお願い致します。

◆秋ヶ瀬(浦和市・大宮市)

集合：午前9時30分、大久保浄水場の北西角近くの土手の上、グランド入り口。

担当：石井 智

解散は昼ごろの予定です。調査のため参加費は不要です。雨天でも行います。

## 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：9月17日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、笠原、若林、兼元、森(力)、清水、小菅

見どころ：夏をはさんで鳥たちの季節が再び始まろうとしている。秋の見沼たんぼでは、どんな鳥たちの世界が繰り広げられるだろうか。

## 坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月17日(日)

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8：17→坂戸にて越生線乗換え8：43発。または寄居7：53→小川町乗継ぎにて坂戸乗換え。JR川越線大宮7：55→川越にて東武東上線乗換え。

担当：藤掛、高草木、石井(幸)、青山、久保田、志村、増尾、池永、佐藤(壯)、吉田(時)、林(久)

見どころ：季節は巡りサンバの渡りも始まるころになりました。コバルトブルーのカワセミと真赤なヒガンバナが映える高麗川の探鳥会、やさしいリーダー達がお待ちしております。

## 松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月23日(土)

集合：午後3時、松伏記念公園入口広場。

交通：東武伊勢崎線北越谷下車、東口①番乗

り場より、エローラ行き14:28発バスにて「松伏高校前」下車。

解散：午後6時頃の予定。

担当：橋口、大塚、神場、小菅、下川、田邊、本田

見どころ：松伏での探鳥会も3回目。数少ない東武線沿線での探鳥地として定着させていきたいと、リーダー一同張り切っています。シラコバトは通年観察でき、秋口は白い4種のサギの他に2種のサギを観察できます。昨年は約1000羽のサギのねぐら入りが見られました。

### 「しらこぼと」袋つめの会

とき：9月23日(土)午後1時~2時ころ

会場：支部事務局108号室

### タカの渡り調査

期日：9月23日(土・祝)、または24日(日)

恒例の調査、一日空を眺めているだけで貴重なデータが得られます。初めての方も気軽にどうぞ。雨天(小雨でも)中止。調査のため参加費は不要です。

◆天覧山(飯能市)：24日

集合：午前9時から正午まで。ご都合の良い時間に山頂展望台へお越しください。近くに水洗トイレあり。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分。

担当：佐久間

他に下記の点でも調査を行います。

◆物見山駐車場(東松山市・鳩山町)：23日

◆鐘撞堂山山頂(寄居町)：23日

◆越生付近(未定)：23日

調査時間は朝から正午過ぎまで。お近くの方はご都合の良い時間にお越しください。

### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月24日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:42発、所沢8:36発に乘車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井(幸)、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)

見どころ：秋の涼風と共に冬鳥の姿もちらほら。南へ渡るツバメを見送り、カケスやコガモたちを迎えましょう。

### 本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：9月24日(日)

集合：午前8時30分、JR高崎線本庄駅北口。集合後、十王バス9時10分発、新伊勢崎行きにて「坂東大橋南詰」下車。現地集合可。駐車は土手側のみお願いします。

担当：北川、倉崎、林(滋)、堀

見どころ：久しぶりの坂東大橋です。環境はだいぶ変わってしまったものの、雄大な赤城山を眺めながら、秋の渡りの鳥を探して、のんびりと河原を歩きましょう。現地にはトイレがありませんので、ご注意ください。

### 浦和市・民家園周辺定例探鳥会

〈差間コース〉

期日：10月1日(日)

集合：午前9時、浦和市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場より、さぎ山記念公園行き8:15発、または大崎園芸植物園行き8:36発にて、「念仏橋」下車。

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤、工藤、笠原、倉林、吉岡(洋)、若林、新井(勇)

見どころ：秋！鳥たちの大移動が始まっています。木々の中を飛び交うヒタキ類を期待して、のんびりと楽しく歩きましょう。調整池では、カモ類の第一陣が見られます。

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月1日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前より北里メディカルセンター病院行きバス8:40発にて、「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、島田、高(文)、内藤、



立岩、永野(安)、永野(京)、高(剋)、  
山田、今井、山野

見どころ：穂波、尾花の波、樹梢の波が風にそ  
よぐ秋。赤トンボが飛び交い、空高く  
鳥たちが渡っていきます。夏から秋へ  
の自然の暦をめくるのは、あなたです。

#### 長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：10月21日(土)～22日(日)

集合：21日午前9時10分、JR長野駅コンコ  
ース(新幹線改札口を出て右側)。

交通：長野新幹線「あさま551号」(東京7：  
00→大宮7：26→熊谷7：40→高崎  
7：54→長野8：50)、または「あさ  
ま1号」(東京7：32→大宮7：56→  
長野8：57)

費用：11,000円の予定(1泊3食、現地バス  
代、保険料など)。集合地までの往復  
交通費は各自負担。

定員：30名(先着順、県支部会員優先)。

申し込み：往復葉書に住所・氏名・年齢・性  
別・電話番号を明記して、菱沼一充(〒

担当：菱沼(一)、藤掛、北川、中里

見どころ：紅葉と新そばが魅力ですが、ムギ  
マキ、マミチャジナイといった秋なら  
ではの出迎えも、最高の魅力です。

#### 群馬県・玉原<たんばら>高原探鳥会(要予約)

期日：10月24日(火)～25日(水)

集合：24日午前7時、JR大宮駅西口、代々  
木ゼミナール前。

交通：往復とも貸切バスを利用。

解散：25日午後6時頃、JR大宮駅西口。

費用：19,000円の予定(1泊2食付き宿泊費、  
バス代、懇親会費、保険料等)。

定員：20名(先着順、県支部会員優先)。

申し込み：普通葉書に住所・氏名・年齢・性別  
・電話番号を明記して、中島康夫(〒  
ま  
で。

担当：中島、櫻庭、中村(榮)

見どころ：新探鳥地です。関東近県ではここ

でないと見られないブナ原生林の紅葉  
の中を歩きます。渡り途中の冬鳥、マ  
ヒワ、アトリ、ツグミなどの群れが見  
られます。

宿泊：朝日の森ロッジ((財)日本森林文化協  
会)

#### 長野県・白馬山麓探鳥会(要予約)

期日：11月3日(金)～4日(土)

集合：3日午前9時15分、JR長野駅西口(善  
光寺口)駅前広場。

交通：10月21日戸隠と同じ

費用：10,000円の予定(1泊3食付き宿泊費、  
現地バス代、保険料他)。集合地まで  
の往復交通費は各自負担。

担当：20名(先着順、支部会員優先、初参加  
者優遇)

申込み：往復葉書に住所、氏名、年齢、性別、  
電話番号、参加回数を明記して、小池  
一男(ま  
まで。

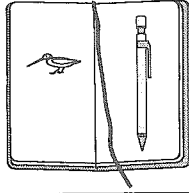
担当：小池、藤掛、岡安、堀

見どころ：ベニマシコ、マヒワ、ミヤマホオ  
ジロ、マミチャジナイなどと、彼らが  
好む木の実や草の種の観察。モルゲン  
ロートと山頂の雪、山腹の紅葉、麓の  
緑の三段染め、アフターの温泉も人気  
です。初参加大歓迎ですので早めにお  
申し込み下さい。

注意：初日の昼食は各自持参、ハイキング用  
靴、雨具、防寒具は必携です。

#### ご注意

- 1、探鳥旅行の宿泊はすべて男女別の相  
部屋です。個室はご用意できません。  
費用は概算を掲載しています。万一過  
不足の場合は、当日精算します。
- 2、ツツガムシの被害が最も多い季節で  
す。服装は、長袖長ズボンが原則。む  
やみに藪の中に入らないように。虫さ  
されの痕があって発熱が続く時は、念  
の為早めに医師の診断を。



# 行事報告

4月23日(日) 鳩山町 物見山

参加: 62人 天気: 晴時々曇

ノスリ コジュケイ キジ キジバト コゲラ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス キビタキ オオルリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 開始早々、物見山の駐車場ではオオルリ、キビタキが囀り、空にはノスリが無い、参加者を歓迎。チゴユリ、ミヤマツツジ、ニオイタチツボスミレの咲く尾根を歩く。時々、シジュウカラ、メジロが出現するものの、鳥影が薄い。にわか雨も降り、あせってしまった。岩殿観音の上り坂は足元が不安定なので心配であったが、無事通過できて一安心。野鳥との出会いは少なかったが、新緑の春を満喫した一日だった。

(島田恵司)

4月29日(土、休) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 18人

荒木恒夫、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、小池由美子、佐久間博文、品田正雄、島田恵司、島田沙織里、島田貴子、志村佐治、納谷美月、福井昭子、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、松村禎夫、百瀬修

4月29日(土、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 18人

石井智、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、北村隆、小林茂、小林ますみ、佐久間博文、佐々木貴子、品田正雄、島田恵司、島田沙織里、高文子、竹内設雄、馬場友里恵、福井恒人、松村禎夫、山影昭三

4月29日(土、休) 春日部市 内牧公園

参加: 44人 天気: 晴

カワウ カルガモ ツミ チョウゲンボウ コジュケイ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハ

クセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) まず公園の池の付近から観察を始めたが、いつもより出現鳥が少ない。更に歩を進め雑木林に入ると、何と当探鳥会初出現のツミを見つけてみんな見入る。下見では確認していたが、本番でも出てくれるとは、リーダーもうれしい。ツミの感激の余韻が冷めぬうちに、更に初出現のコムクドリを確認し、みんな大満足。毎年出てくれていたムナグロには会えなかったが、例年より多い26種の出現で十分楽しめた。(吉安一彦)

5月5日(金、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加者: 71人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キジ バン コチドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ キアシシギ オオソリハシシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ ユリカモメ セグロカモメ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ エゾムシクイ セッカ メジロ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 潮が引くのが遅く、シギ・チドリ類は少なめだったが、コアジサシの求愛給餌は女性の参加者に大好評だった。緑地ではエゾムシクイの声も聞こえた。終了後の居残り組には、シギ・チドリを堪能してもらった。(杉本秀樹)

5月7日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 83人 天気: 曇

カイツブリ カワウ チュウサギ アオサギ カルガモ コガモ ノスリ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン コチドリ ムナグロ キョウジョシギ キアシシギ イソシギ タシギ コ

アジサシ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ  
 ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ  
 ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ  
 メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ  
 リ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス  
 (38種) 総勢83名もの参加者が集まり、長い列に  
 なってしまいました。100羽以上のムナグロの中にキ  
 ョウジョシギとキアシシギが混じり、チュウサギ、  
 オオヨシキリ、セッカ等の夏鳥に加えて黒浜では  
 珍しいノスリが出現した。この時期としては非常  
 に多い38種も見られ、楽しい探鳥会であった。

(玉井正晴)

5月12~14日(金~日) 東京都 三宅島

参加: 12人 天気: 13日=雨後曇、14日=晴

コアホウドリ クロアシアホウドリ オオミズナ  
 ギドリ アカアシミズナギドリ ハイイロミズナ  
 ギドリ ハシボソミズナギドリ カツオドリ ウ  
 ミウ ゴイサギ アマサギ アオサギ ミサゴ  
 トビ コジュケイ キジ バン メリケンキアシ  
 シギ キアシシギ イソシギ チュウシャクシギ  
 トウゾクカモメsp. ウミネコ カンムリウミス  
 ズメ カラスバト キジバト ツツドリ アオバ  
 ズク ハリオアマツバメ ヒメアマツバメ アマ  
 ツバメ コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ ミソ  
 サザイ コマドリ イソヒヨドリ アカコッコ  
 ウグイス ウチヤマセンニュウ イイジマムシク  
 イ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ  
 カワラヒワ スズメ ハシブトガラス (48種) 船  
 は雨の阿古港に接岸。参加者も少なかったので、  
 宿の車を借りて島内を回ることにする。アカコッ  
 コは結構見られ、一昨年のように心配するほどで  
 もなさそう。カラスバトも、雨上がりが幸いし  
 てか、いたる所でゆっくり観察できた。夕方は都  
 営の露天風呂に足を伸ばし、夜は光るキノコの観  
 察に出掛け、雨が降っても参加者が少なくても、  
 禍福はあざなえる縄の如し。

(榎本秀和)

5月13~14日(土~日) 長野県白馬山麓

参加: 25人 天気: 晴

コサギ アオサギ カルガモ ハチクマ トビ  
 コジュケイ キジ キジバト ジュウイチ ツツ  
 ドリ ヨタカ アマツバメ アオゲラ アカゲラ  
 コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ  
 ハクセキレイ セグロセキレイ サンショウ

クイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コルリ ノ  
 ビタキ クロツグミ アカハラ ヤブサメ ウグ  
 イス オオヨシキリ メボソムシクイ センダイ  
 ムシクイ キビタキ オオルリ コサメビタキ  
 エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカ  
 ラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ ホオアカ  
 ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ イカル  
 シメ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ ハ  
 シボソガラス ハシブトガラス (57種) 5月の白  
 馬は濃桃色のオオヤマザクラに里山が染まり、サ  
 クラスミレ、アズマイチゲ、ジョウジョウバカマ  
 など可憐な花々が道端を彩っていた。「一歩」の  
 周りの森からはキビタキ、オオルリ、クロツグミ  
 といった歌自慢の鳥たちのコーラスが聞こえ、餌  
 場はニュウナイスズメ、アオジといった常連さん  
 で賑わっていた。今回は58種の山野草、10種の樹  
 木、18種の昆虫・動物を観察できた。

(小池一男)



5月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 35人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ  
 ギ カルガモ ワシタカsp. コジュケイ キジ  
 バン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツ  
 バメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ  
 ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ ホオジ  
 ロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガ  
 ラス ハシブトガラス (27種) 雨を心配しながら  
 出発。バードウィークの真っ只中というのに、鳥  
 の姿も声も少ない。SLを見送ったあたりから空  
 も明るくなり、遠くからキジの声が聞こえるよ  
 うになった。明戸堰への途中の荒川ではカワセミが、  
 また、2カ所でキジのオス、メスが姿を現してく  
 れたが、出現鳥が少なく、キジだけが目立った探  
 鳥会だった。

(和田康男)

連絡 中長

●ささやかに！IT革命！など

研究部、シラコバト見つけ隊のデータ整理を当面の目的とするコンピューター導入が、橋口長和幹事担当で進められています。今まではそれぞれが自分のパソコンを持ち寄って作業していたのですが、支部の備品として購入する事になったものです。各部での活用も検討されています。

一方、10年前から頑張っていたコピー機がついにダウン。新機種に買い替えました。予算編成時には予想していなかった出費です。

7月の袋づめの会では、新しいエアコンがフル稼働しましたが、それでも暑い！の声。6畳2間に20人以上入ると、やはりつらいですね。ないよりははずっとましと、ご容赦ください。

●支部の普及活動

6月10日(土)、浦和市立郷土博物館と三室公民館共催の親子探鳥会が開催され、協力依頼を受けた支部からは、講師・リーダーとして楠見邦博・楠見文子・工藤洋三・倉林宗太郎・森力の5名が参加、定員を越えて集まった54名に、いのちの連鎖について、わかりやすく話をしました。

●東京支部主催第3回カラスシンポジウム

「とうきょうのカラスをこうして減らす」  
日時：10月8日(日)午後1時～5時  
場所：立教大学5号館5122教室  
定員：200名(先着順) 資料代：1000円  
問い合わせ先：〒160-0022新宿区新宿5-18-16  
新宿伊藤ビル3階 日本野鳥の会東京支部  
TEL 03-5273-5141 FAX 03-5273-5142

●カレンダー2001の名入れ印刷

日本野鳥の会のカレンダー2001年版の名入れ印刷を、100部から25部単位で受付中。モノクロ文字100～275部で税込み単価910円、300～475部で780円……部数により割引。9月末締切で11月上旬納品、10月末締切で12月上旬納品予定。

問い合わせ・受注・進行管理：明星プロセス  
(株)日本野鳥の会カレンダー係(石井・柴田)  
〒108-0071 港区白金3-14-4 LBビル5階  
TEL 03-3444-5261 FAX 03-3444-5418  
発行：日本野鳥の会企画事業センター(鈴木・小林)TEL 03-3444-5261 FAX 03-3444-5418  
納品：日本野鳥の会配送センターから

●さいたま緑のトラスト写真コンクール

テーマ：トラスト保全地(1号地から4号地)の自然環境、保全管理活動、ふれあいなど  
締切：12月22日(金)  
入賞：賞状、副賞。大宮第二公園緑の相談所と県庁内に作品展示。

問い合わせ：県環境防災部緑政課(TEL 048-830-3098)、または財さいたま緑のトラスト協会(TEL 048-824-3661)

●9月の事務局 土曜と日曜の予定

- 2日(土) シラコバト見つけ隊会議。
- 9日(土) 編集会議、研究部会議。
- 16日(土) 校正作業。
- 17日(日) 役員会議。
- 23日(土) 袋づめの会。

●会員数は

8月1日現在2,926人です。

活動報告

- 7月14日(金) 普及部だより発送(海老原教子、楠見文子)。
- 7月16日(日) 役員会議(司会：倉林宗太郎、パソコン・コピー機の購入、その他)。
- 7月22日(土) 8月号校正(海老原美夫、大坂幸男、喜多峻次)。

編集後記

袋づめの会が今月から早くなって、取扱部数は大分少なくなる。余った時間は、折角だから有効に活用したい。何かアイデアは？  
とりあえず、かつての写真クラブ定例会みたいに、スライド写真やビデオ作品などをご披露くださる方、大募集！ (海)

『しらこぼと』2000年9月号(第197号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130  
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階  
(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事はすべて上記ホームページに転載されます。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用